「大阪商科大学跡」の石碑移転

大阪市立大学の前身である大阪商科大学、大阪市立高等商業学校の校舎が明治44年から昭和9年までの23年間、現在の大阪市天王寺区烏ヶ辻にありました。イングリッシュ・ルネッサンス様式による煉瓦造りの大校舎は、当時の新聞が「関西第一の大校舎」と表現したほどの大規模なものでした。その後、敷地には大阪逓信病院が建てられましたが、有恒会では同窓生から寄せられた「母校の校舎があった所を何かの形で残したい」との要望を聞き入れ、会員からの寄付を募って昭和50年4月に記念碑を設立しました。

石碑は高さ180cm、幅と奥行きはそれぞれ55cmの立派なもので、旧校舎の門柱をかたどっています。除幕式には猪崎久太郎会長、村井八郎・藤本元次郎副会長をはじめとする有恒会関係者33人と、大学からは当時の森川晃卿学長ほか、多数の関係者が出席し盛大に挙行されました。

大阪逓信病院はその後第二大阪警察病院に変わりましたが、このほど増床に伴う建て替え工事が行われることになり、石碑のある一角も取り壊されることとなりました。有恒会では先輩諸氏が残した石碑の扱いを検討した結果、杉本キャンパスに引き取るとともに、商学部棟前の五代スクエアに隣接する形で再度建立いたしました。

有恒会会長　岡本直之

令和4年3月